

断酒高知

3月号

発行所
高知県断酒新生会
高知市若松町 215
TEL(088)883-7925
発行人 武内 晴夫
編集人 橋本 和明

小林哲夫さんを
しのぶ
高知県断酒新生会会長
武内 晴夫

第54回松村記念例会

1月24日(水)



断酒会生みの親である故松村春繁初代全断連会長を偲び、亡くなられた月である、1月に毎年開催される「松村記念例会」。今年は1月24日(水)に高知市東部健康福祉センターで行われた。

今回は、松村氏の後を継ぎ、先頃90歳の生涯を断酒継続で全うされた元高知県断酒新生会会長・元全断連副理事長、小林哲夫さんを偲び、TV出演された番組の録画を観賞した。



恒例の断酒継続者年次表彰では、長野高頭(断酒継続20年)、二神啓通(15年)、山岡一雄(10年)、清川真史(1年)他(以上敬称略)が表彰された。「おめでとうございませす、これからも1日断酒を共に続けて参りましょう。」

元高知県断酒新生会会長・元全日本断酒連盟副理事長で、作家の小林哲夫さんは病氣療養中のところ、令和4年7月30日に享年90歳で逝去された。十数年前から体調を崩され、いつかはこの時が来るものと覚悟はしておりましたが、実際に逝去の報に接し、深い悲しみでいっぱいです。

小林さんは、高知県断酒新生会会長として、全断連初代会長(高知県断酒新生会初代会長)松村春繁氏の断酒の教えを継承し、それを後世に伝えるとともに、長年にわたる全断連の副理事長も務められるなど、全断連の確立と発展に多大の功績を残された。こ

ここに、事績に触れながら故人のご冥福をお祈り申し上げようと思ふ。

・・・・・・・・・・・・・・・・

小林さんは、20代前半から問題飲酒が始まり、30歳そこそこには、「生きる中で酒さえあればそれ以上のことは望むまい」とまで考えるようになっていった。そんな中で大きな転機が訪れた。小林さんと同じ高知市若松町に住んでいた全断連初代会長の松村春繁さんとのご縁もあり、小林さんの奥さん、息子さん、ご両親の勧めで断酒会を見学したその日（昭和42年2月22日）に高知県断酒新生会に入会した。小林さんは34歳になったばかりだった。断酒会に入会して1年足らずは再飲酒するなど紆余曲折はあったが、本人の努力とともに家族の献身的な協力により完全断酒に踏み切ることができた。

そんな折り、まだ入会して1年と少しの昭和43年に、高知県断酒新生会の会計に選ばれた。

また、昭和44年の春には、2年の期限付で全断連理事に選任され、同年秋の第6回全国（高知）大会の事務局を担った。松村会長は、松村語録に紹介されているように、「会員は断酒歴に関係なく平等である」を信念に、「断酒会には先輩も後輩もない」「断酒会に先生はいない。強いて言うならばそれは新入会員である」との言葉を残している。小林さんは断酒会に入会して間もなく、飲酒時代の借金にも臆せず中古車を購入して、先輩会員や参加できない新入会員を同乗させ県内各地の例会や県外研修を駆け巡った。また、入会后すぐに松村会長の指示で全断連高知分室の事務の手伝いをしていたので、そんな様子を近くで見ていた松村会長が、小林さんの溢れんばかりの前向きなエネルギーと行動力、責任感を感じ取り全断連理事に選任したと思われる。

・・・・・・・・・・・・・・・・
平成3年全断連は長年の懸案

であった「指針と規範」（※指針Ⅱ取るべき態度・進むべき方向を示すもの。規範Ⅱ行動や判断などの基準となる手本。）を作成した。この冊子を全断連の基本理念・行動規範としているが、原案作成、執筆を担ったのが小林哲夫さんである。

松村理念を継承し、松村精神の記録者として、酒害関連の著作や書き物を多く残され啓発活動に多大な功績を残された。ここに小林さんが執筆・編集された作品の一部を紹介する。

・昭和58年 松村会長の断酒理念や多くの先輩たちが残した財産を全国の仲間を紹介した「依存より創造へ」を高知県断酒新生会から発行。

・昭和58年 松村断酒語録の解説書である「断酒会・語録に学ぶ」を高知県断酒新生会から発行。

・昭和63年 短編小説集「航跡Ⅲ」で「第21回棕庵文学賞を受賞。」

・昭和63年 酒害とは、断酒と

は、断酒会の役割とは等々の断酒会の原点にあるものを再文章化した「水仲間」を高知県断酒新生会から発行。

・平成2年 伝記小説「松村春繁 断酒会初代会長」をASK（アルコール薬物問題全国市民協会）から出版。

・平成5年 父親の立場から子供との関係をとらえた「ACブルース」を高知新聞に連載、第38回高知県出版文化賞を受賞。

・平成14年 「照射・解説」を高知県断酒新生会から発行。

・平成20年 断酒会の50年の軌跡と仲間たちの系譜を綴った「仲間たちの系譜」を高知県断酒新生会から発行。

この他にも、沢山の小説を出版、且つ関係機関の本や広報誌等にも多く執筆され、中でも全断連機関紙「かがり火」を長い期間主宰された貢献度は大きい。

平成11年10月に、高知県断酒新生会は保健分野で最高の名誉

である日本保健文化賞（団体部門）を受賞した。受賞の理由は、長年の地域に於ける断酒活動ではあるが、もう一つの大きな理由は小林さんが「著者」「編集者」として出版した数々の本が評価されたことによるもので、最初は個人部門での表彰の話があったと聞いている。

私が、小林さんにお世話をいただき断酒会に入会した時、小林さんは全断連副理事長・高知県断酒新生会会長に就かれ全国を駆け巡り多忙極まる頃であった。

午後7時から開かれていた本部例会では、冒頭に小林さんから、「松村方式」「松村語録」「指針と規範」等々の説明があり、私たちはその話を聞くのが楽しみで例会に遅れないように参加していた。当会会員が小林さんから学んだ言葉を一つだけ紹介する。「酒地獄の生活から断酒会に入会して酒が止まり天国の様な安心できる生活をして

いる家族を、もう一度地獄へ突き落すようなことは断酒会員とさせていただけなく、人としてやつたらいかん」と言われたことだ。私たちは、この会に入会できたことを心から幸運であったと思う。

小林さんは、64歳ごろからい

『松村春繁会長・知られざる側面』

小林 哲夫

くつもの癌を患いながら断酒会活動をされていたが、その苦惱を微塵も見せず、私たちに進むべき確かな道を示してくださった。どうか安らかにお眠りください。ありがとうございました。

故小林哲夫氏を偲び、機関誌「第61回松村断酒学校特集号」（平成17年発行）に寄稿された記事を再掲載（長文のため、一部抜粋）します。故松村会長について思いを巡らし、断酒会活動の究極の目的、「この世から一人の酒害者も取り残さない」を見つめ直すために。

松村会長は昭和33年11月25日、高知県断酒新生会を28歳の小原寿男と二人で全国に先駆け立ち上げた。そしてその翌年の春、この港町の町内会会長を引き受けている。断酒会を結成したばかりでさぞかし多忙であつたらうに何故、という疑問があるが、町内の世話役になることで町民一人ひとりと心安くなれば、酒害相談活動が容易になると考えたのではないだろうか。その証拠に松村会長はこま

めに町内を回り始め、酒の問題のある町民に断酒を勧めるようになっていたのだ。

昭和42年2月、私は松村会長の指示通り動いた妻の作戦にはまって断酒会に入会したが、一番驚いたことは松村会長が私がいままで抱えてきたイメージとは、まるで別の人間であつたことだ。松村会長が断酒会をつくったことも町内会長であることも知ってはいたが、飲酒中の私は道で会長に出会ったときは顔をそむけ、松村会長もすでに町内では有名なアル中であつた私の家を訪れることはなかった。だから、私の頭の中にある松村会長は市議員選挙のとき、人を寄せ付けないようなたくみな人間で終わっていたのだ。

新入会員紹介のとき松村会長は私の顔を穏やかな眼で見ながら、「私は現在、全日本断酒連盟という断酒会の全国組織の会長をしています、灯台下暗しの言葉通り自分の住んでいる町

内の酒害者の、ただの一人も断酒してもらおうことができませんでした。ところが今夜は若い小林君が入会してくれました。小林君は必ず断酒できる人です。私は今、ほっとしています。こんなうれしいことはない。小林君ありがとう」と言った。本当にほっとした表情であり、本当にうれしそうに笑っていたので、私の頭の中のイメージは簡単に崩れていった。

飲酒中の私には町内で誰一人、松村会長の話をする人はいなかった。うかつに口にするとも私が大荒れになるか、荒れなくとも気分を損なうことは分かってきっていたからだろう。ところが私が断酒会に入会すると、手のひらを返したように松村会長の話が私の耳に入るようになった。とりわけ松村会長と同世代の谷川理髪店の親父さんは、私が散髪に行く度に待っていましたとばかり松村会長のエピソードを語ってくれた。

とりわけ感心した話は、町内

会総会の後の慰労会で町内会の役員をしていた海事事務所（海の司法書士）の所長が、ジュースの入っている松村会長のコップに面白半分には酒を入れた話である。それとも知らず少し口にした会長はコップを持って黙って席を立つとトイレに行き、空のコップを持って戻ってきて知らぬ顔をしていたというエピソードである。私もしそんな状況におかれたら多分、怒りで切れまくったことだろう。

また、谷川理髪店の常連である森村酒店の親父さんの話は、松村会長に対する尊敬と思いやりに満ちていた。彼は断酒会に入っても酒をやめない港湾労働者が店に飲みにくると、「いい加減で松村会長を喜ばせてやれよ」と言うことにしていた。「わしが見るよりは松村会長の名前を出すほうがよっぽど効果がある。あの人は本当に偉いや」と言った後、「哲ちゃん（私の名）、あなたも会長を悲しませたらいかんよ」とよく言われ

たが、私には森村の親父さんの気持ちがあつたので腹は立たなかつた。

また、谷川理髪店の親父さんの「松村会長は家計簿をちゃんどつけてる。奥さんの仕送りでも生活して、断酒会の用で全国も回らせてもらっているから、一銭の無駄遣いもできん」とよく言っている」という話は後年、先輩会員の猪原さんからも聞いたが、偉大な指導者の裏側にこんな妻に対する感謝の気持ちがあつたことが、私に大きな感動を与えた。

今、全断連は「回復のステップ」づくりを検討している。「断酒が継続されなければ回復はないが、断酒が継続されているだけでは回復はない」からである。ところが意外なことに古い会員の中には、アルコール依存症は酒を飲まないだけで回復する病気である、と考えているものが多いのである。「指針と規範」はそんなに具体的ではないが、一応回復のステップになっている。

かし、それすら読もうとしない者も多い。そうなるも彼らには「回復」のイメージは浮ばないし、それが普通である。

その点、私は松村会長のすぐ傍にいたため恵まれていた。最悪のアル中時代の会長をつぶさに見、アル中の最終コースに入つて生ける屍のようになった会長を見、一人で断酒していたころのドライ・ドラッカーではない会長を見、断酒会を立ち上げてからの見事な変身振りを見ているのである。つまり、回復の具体的な形を松村会長を通して学習できたのである。

そして、「回復とは自らを変えることであると同時に、家族はもとより周囲の人間とよりよい関係をつくることである」と納得した。松村会長は家族を大切にしたい。断酒会員を大切にしたい。見知らぬ酒害者を大切にしたい。そして地域の人たちとの人間関係まで大切にしたいが、このことができて断酒会員は少ない。

令和5年度の記録

― 下半期 ―

9月

9/16(土)

アデイクシオンフォーラム高知

高知県精神保健福祉センター主催

様々な依存症自助グループが

参加しプレゼンと展示によって

啓発に努めた。

断酒会はモデル例会を行い、

参加された方々に模擬体験をし

てもらった。



10月

10/19(木)

依存症セルフヘルプグループ

見学会

高知県精神保健福祉センター主催

行政支援者の皆さんに、会員・家族の体験談を聞いていただき、質疑応答、情報交換により断酒会活動への理解を深めていただいた。

11月

11/12(日)

飲酒運転根絶パレード

令和5年度アルコール関連問題

啓発全国三街頭キャンペーン

厚生労働省、警察庁の後援を受け、今年も帯屋町アーケード

を約1時間パレードした。断酒

会会員家族、医療行政支援者20

名参加、啓発チラシとティッ

シユを配布。コロナ禍も落ち着

き人通りも

戻ってきた

日曜日、汗

ばむほどの

晴天にも恵

まれ多くの

買い物客や

観光客にア

ピールでき

た。



11/19(日)

本山町産業文化祭

会員・家族、AKKこうち、

本山町社会福祉協議会他の協力

によりアルコールパッチテスト

や依存症クイズなどで啓発活動

を行った。150名が当ブース

に立ち寄り、それぞれの体質に

合った酒の飲み方や適正飲酒量

について知ってもらった。警察

運転予防チラシ」の配布も行った。



12/17(日)

酒なし望年会

高知県断酒連合会の会員家

族、行政、医療関係者他40名参

加し、南国市サザンシティホテ

ルで4年ぶりに開催。体験談発

表、幡多断酒会大江会長による

新会員へのインタビュ、余興

(劇、音楽演奏、カラオケ)で

楽しく交流の時間を過ごした。

下司孝之さん(高知県アル

コール問題研究所)より大変貴

重な片山哲元首相直筆の掛け軸

をご寄贈いただいた。



断酒学校告知

第77回松村断酒学校



日時 令和6年 5月11日(土)・12日(日)

場所 本山町プラチナセンター(大豊ICから約10km)

※諸事情により、本年度も一泊二日で開催します。

※皆様のご参加を心よりお待ちしております。 松村断酒学校事務局

第二 土曜日	第一 土曜日	第三 金曜日	第一・二・三・四・五 木曜日	第二・三・四 水曜日	第一 水曜日	第四 火曜日	第二・五 火曜日	第三 月曜日	第四 日曜日	毎月開催日
右に同じ	右に同じ	十九時～二十一時	十三時～十五時 (昼間例会・相談)	右に同じ	十九時～二十時四十五分	右に同じ	右に同じ	右に同じ	十九時～二十一時	時間
香南市のいっふれあいセンター	土佐町農村環境改善センター	高知市瀬戸西町公民館	県断酒新生会事務所 (高知市若松町二五)	高知市東部健康福祉センター (但し、祝日の場合は県断酒新生会事務所)	県断酒新生会事務所 (高知市若松町二五)	安芸市総合社会福祉センター	県断酒新生会事務所 (高知市若松町二五)	南国市地域交流センターみあーれ!	佐川町総合文化センター	場所

※ 高知県断酒新生会例会案内(ご気軽に)ご参加ください。

ご本人や家族の方でお酒に
悩んでいる方はいませんか?

NPO法人高知県断酒連合会Zoom朝例会のご案内

毎月2回、原則第1、3日曜日、午前7時より9時まで2時間のオンライン例会が行われています。参加希望者は次の宛先へメールで「参加希望」とお申し込みください。

●NPO 法人高知県断酒連合会 danshu.kochi@gmail.com

◆本例会は顔出し・本名での参加をお願い致します。匿名参加はできませんのでご了承ください。